

歴史記念館建設を構想

四大プロジェクト推進の一貫として

小松電機産業(株) (松江市乃木福富町七三五―一八八松江湖南テクノパーク第七号 設立〓昭和四十九年二月 創業〓昭和四十八年二月 資本金〓一億円、小松昭夫代表取締役社長) は十月一日、本社大会議室に於いて記者会見を行ない、21世紀に向かつて新たなスタートを切るため、日本文化の原点たる出雲の地に、具体的な事業の場を創出するため、四大プロジェクトを推進すると発表した。

それによると、◇緑・感謝・戦争の歴史記念館◇小規模理想郷 (中海・本庄工区の新構想)◇心の首都 (松江市市街地再開発構想)◇未来を拓く研究・教育機関 (※以上の各プロジェクト名は、現段階での仮称)。

これは、一〇年の歳月を経て大恐慌脱出、夢とロマンに満ちた21世紀を切り拓く根源的発展型プロジェクトとして起案されたものである。

今日の根源的な問題は環境問題と、社会問題としての信頼関係喪失とし、本プロジェクトは、この二つの問題を解決する糸口を見出すため、構想・調査・企画・設計・建設・完成後の運営の各段階を通じて関係諸国と共創で推進。世紀末の閉塞感を打破、人類の新たな歴史の第一歩につながることをめざして構想したものとしている。

歴史館の趣旨の一つとして、日本が世界の中でどのような役割を担い、どう行動していけばよいかを考える「場」の創出を目指すことをアピールしている。また、その概要として、異国

の人との出会いによる「新しい文化と文明創造」、「戦争・紛争の悲劇」という歴史の「陰陽」両面を、時間軸に沿って理解できる記念館を構想している。



小規模理想郷の趣旨の一つとして、深刻化しつつある環境問題、食糧問題、エネルギー問題

解決のため、先端技術と自然との高次元での融合をめざす実験場を創出。また、概要として、海洋牧場、有機農業田園都市、マリーナ・家庭有機菜園付き住宅群などの創出及び建設を取り上げている。

心の首都の趣旨の一つとして、荒廃著しい青少年問題の解決のため、人間本来の価値観(利己から利他へ)を育む教育の場を

創出することをめざしている。

また、その概要として、松江市大橋川南部地域周辺を再開発する一方、宿泊可能な「寺小屋」を建設。シンボルタワーとして

商号・小松電機産業(株) 既往業績の推移 (単位:百万円)

決算期	売上	申告所得
平成元年7月	1,218	125
2年7月	2,399	744
3年7月	3,115	882
4年7月	3,502	1,106
5年7月	3,450	1,018
6年7月	2,851	718
7年7月	3,474	928
8年7月	3,805	1,022
9年7月	4,201	1,136

「陰と陽」の空間を持つ五重塔の建設を構想するなど、陰と陽のバランスを図る多彩な心の首都構想を盛り込んでいる。

未来を拓く研究・教育機関の趣旨として「ニューワールド (地球ユートピア実験構想)」具現化の過程で、人類の英知が芽生えることをめざし、21世紀を担うリーダー養成を行なう。概要として、日本国内にとどまらず、アジアをはじめ広く世界から志ある人が集い、自由闊達に自己開発のできる研究・教育機関を開設するとしている。

四大プロジェクトに関する環境問題などの講演会開催

小松電機産業は四大プロジェクトに関連して十月九日、同社のグループHNS (人間・自然・科学・研究) セミナとして、環境微生物学博士・高島康豪氏を招き、「新たな地球と生命の蘇生に向けて」というテーマで講演会を開催した。同大会議室に来聴者二百数十名が集い、博士は「すべての物質は分解消失できる」とし、環境問題に未来を拓く示唆に富んだ内容に、来聴者一同熱心に耳を傾けた。